

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2019

課題番号：26370510

研究課題名(和文) 英米ドラマコーパスに基づく英語口語表現の記述的研究

研究課題名(英文) A Descriptive Study on English Spoken Expressions Based on British and American TV Drama Corpora

研究代表者

新井 洋一 (Yoichi, Arai)

中央大学・経済学部・教授

研究者番号：10151143

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)： Mark Davies教授が公開しているThe TV Corpus は完全なものでなく、英米の重要なTVドラマが複数漏れている。今回の研究では、これらの漏れを調査し、補完するTV Dramaデータベースを構築した。データには、それぞれの登場人物の発話文の他に、登場人物名、性別、年齢区分などの情報を加えてデータベース化した。エピソードの総数は約360もあり、The TV Corpusを補完するデータベースとしては、非常に有意義なものと思われる。

今後は、The TV Corpusと今回の成果である補完的データベースを元に、2019年にまとめた罵倒語研究論文をさらに発展させた研究を進めたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

Mark Davies教授が公開しているThe TV Corpus は、英米の重要なTVドラマが複数漏れていて、今回の研究では、これらの漏れを補完するTV Dramaデータベースを構築した。エピソードの総数は約360あり、データは、それぞれの登場人物の発話文と共に、登場人物名、性別、年齢区分などの情報を加えたものにまとめ、エクセルデータとしてデータベース化した。

この結果、今後のオンライン利用への加工も容易に可能であり、単独での公開か、すでにあるDavies教授のThe TV Corpusへの合体による公開か、今後は希望する個人研究者への提供の可能性も視野に入れて考えていきたい。

研究成果の概要(英文)： "The TV Corpus" administered by Prof. Mark Davies does not include the full list of all the important TV series and episodes, some of which are excluded from the corpus list. The present study examines what those excluded series and episodes are and creates the database which includes them. Each episode's database includes information of each character's name, his/her spoken sentence, his/her sex, his/her age attribute. The total number of the added episodes is about as many as 360, which seems to mean that the author's present database is very significant as a database to complement "The TV Corpus".

From now on, based on the paper regarding swearwords which was written in 2019, a further comprehensive study of English spoken expressions is expected to be continued, making full use of "The TV Corpus" and the author's complementing database, which is one of the achievements of the present study.

研究分野：英語学

キーワード：コーパス TVドラマ 罵倒語 BYU corpora 通時的変化 bloody fucking damn

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、口語表現のコーパスとしては、1990年代初期のデータを収めた BNC があるものの、数十年にわたって口語表現が納められたコーパスは皆無であった。しかし、その後、Mark Davies 教授が BYU Corpora に、Corpus of American Soap Operas を加えたことで、TV ドラマコーパスの重要性が認識されるようになった。これは、10 の米国の TV ドラマ作品の、2001-2012 の間に放送されたスクリプトを収録した 1 億語のコーパスである。これを目にして、より長い年代にわたる英国の TV ドラマも含めた TV ドラマのコーパスが必要と感じ、とりあえず 1990 年代から現在までの、おもな英米の TV ドラマの収集とデータベース化を計画することに至った。

開始してからさらに BYU Corpora には、映画スクリプトを収録した The Movie Corpus、そして 4 年後の 2019 年には、英米の TV ドラマを中心に、1950 年代から今日に至る英語の TV ドラマスクリプトを収録した The TV Corpus (<https://corpus.byu.edu/tv/>) が公開された。この公開は同様の研究を進めていた私には衝撃であったが、The TV Corpus が、私のコーパスリストを全部含めているのか、漏れはないのかどうか検証が必要であると考え、当初の予定を変更し、BYU の The TV Corpus を詳細に調査し、The TV Corpus の全ドラマリストの調査と、リストに漏れている TV ドラマの洗い出しをおこなうことにした。同時に、漏れている TV ドラマの映像データの収集を進め、補完的データベースの構築に向かうことになった。

2. 研究の目的

以上の経過を経て、最終的な研究目的のひとつは、BYU の The TV Corpus から漏れた TV ドラマのリストアップと、それらの TV ドラマの映像資料の収集、文字起こしの上、データベース化をおこなうことである。その結果、BYU の The TV Corpus を補完するデータベースとして有意義なものとなる。また、The TV Corpus にない特徴として、登場人文の発話文のみならず、それぞれの発話の登場人物名、登場人物の性別、年齢区分などの情報を新たに加えることを目指した。また、エクセルデータとして データベース化することで、さまざまな応用がきくように配慮した。

記述的研究面では、英米の口語表現、特にタブー表現を含む新しい口語表現・慣用句の発掘、口語表現に特徴的な緩衝表現 (hedging expressions)、罵倒語 (swearwords) の発達について、特に通時的な観点から観察と分析を試みることを目的とした。

3. 研究の方法

TV ドラマのデータベース構築については、Davies 教授の The TV Corpus の全ドラマリストの調査の結果、放送開始時期が 1950 年代の Hancock's, 1960 年代の Citizen James, The Rag Trade, Steptoe and Son, The Army Game, Till Death Us Do Part, Our House, All in the Family, 1970 年代の The Good Life, Man About the House, The Wackers, Odd Man Out, 1980 年代の The Young Ones, Ever Decreasing Circles, In Sickness and in Health, Watching などのシリーズが、全作品あるいは一部のエピソードに欠落が見られることが判明した。そこで、これらの欠落作品を mp4 にデジタル化し、文字起こし業者の協力のもと、エピソード数にして約 360 エピソードの、TV ドラマデータベースを構築した。

記述的研究のための基礎研究のひとつとして、取り扱うべき主要な英語の罵倒語は何であるべきかについて、通時的および共時的に考察した。その結果、damn, fucking, bloody の 3 つの罵倒語が、特に重要な罵倒語であることを突き止め、通時的および共時的な言語特徴について、(1)「強意語的機能を持つ罵倒語の進化特性について」(第 44 回英語 コーパス学会大会: 2018/10/08) という口頭発表をおこなうとともに、(2) ほぼ同タイトルの論文(2019 年 9 月末発行)にまとめた。

論考では、まずこれらの罵倒語が、bloody > damn > fucking の順序で、ほぼ 100 年間隔で発達を遂げていることを明らかにした。共通の機能的進化として、adj. (attributive: pre-noun) => adj. (intensifier: pre-noun) => adv. (intensifier: pre-adjective) => adv. (intensifier: pre-verb), という機能転換 (functional shift) の一つである品詞転換 (conversion) が起きていることを例証した。後半では、新井 (2011) に倣って、「快性」素性 [±PLEASANT] (略して [±P]) を導入し、罵倒語が快素性 [+P] を持つ語との共起が、かなり進んでいることを明らかにした。そして約 30 年の間隔がある BNC と NOW corpus の 2 つの大規模コーパスから、特に快素性 [+P] を持つ共起語の広がり度を調査してまとめ、最近では特に、「damn と共起する [+P] 形容詞の種類が格段に増えていること」を明らかにした。今後は、この研究を基に、Mark Davie 教授の The TV Corpus と今回の研究成果である補完的ドラマデータベースをフル活用して、これらと類似の罵倒語を含めて、テレビドラマのスクリプトコーパスを基にした通時的な言語的特徴の変化に関する研究と、さらなる包括的な英語口語表現に関する研究を進めて行くことにしたい。

4. 研究成果

ひとつの成果は、Mark Davies 教授による The TV Corpus の補完的な英米の TV Drama のデータベースを構築できたことである。前節で述べたように、エピソード数にして約 360 の、BYU の The TV Corpus を補する英米 TV ドラマデータベースとなった。データは、それぞれの登場人物の発話文と共に、登場人物名、性別、年齢区分などの情報を加えたものにまとめ、エクセルデータとして データベース化した。この結果、今後のオンライン利用への加工も容易に可能であり、単独での公開か、すでにある Davies 教授の The TV Corpus への合体による 公開か、今後はいろいろな可能性を模索できよう。

前節でも触れたように、記述的研究の基礎研究として、英語の bloody, fucking, damn の 3 つの罵倒語について、(1)「強意語的機能を持つ罵倒語の進化特性について」(第 44 回英語 コーパス学会大会: 2018/10/08)という口頭発表をおこなうとともに、(2)同タイトルの論文(2019 年 9 月末発行)にまとめた。

この研究は継続しており、これらと類似の罵倒語を含めて、The TV Corpus と補完的な私の作成したデータベースを基に、特徴的な口語表現の通時的な言語変化の分析と、さらなる包括的な考察を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 新井洋一	4. 巻 93
2. 論文標題 強意語的機能を持つ英語の罵倒語の進化特性について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文研紀要	6. 最初と最後の頁 71-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 新井洋一
2. 発表標題 強意語的機能を持つ罵倒語の進化特性について
3. 学会等名 英語コーパス学会第44回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----